

2009年度大学入試センター試験 解説〈日本史B〉

第1問 地方行政区画の歴史的変遷 (配点 12)

問1 1 2が正しい。

ア 律令政府は、東北地方に支配地域を拡大させると、蝦夷に対する防御施設として城柵を築いた。8世紀初めに、最上川流域に出羽柵を築いたほか、陸奥国の多賀城には陸奥国府と鎮守府を置き、これを蝦夷経営の拠点とした。

イ 律令体制下の国々は畿内と七道に分けられた。都周辺の畿内は大和・山城・河内・摂津・和泉の5カ国をさし、七道とは東海・東山・北陸・山陰・山陽・南海・西海道をさしている。七道は中央と地方を結ぶ幹線道路の名称であったが、のちにその周辺一帯の諸国を含むようになった。山陽道は、律令制度下では都と九州・大陸を結ぶ大路として最重視された。

問2 2 1が正しい。

律令国家は重要地域に特別官庁を設け、都に左・右京職、都への重要港がある難波には摂津職を置いた。また、外交・国防上の要地である九州地方には、「遠の朝廷」とよばれた大宰府を置き、西海道諸国を統轄させた。

②の衛士は宮門の警備に配属、③の市司は左右両京に置かれた東西市の監督官庁、④の近江国は東山道に属するから、いずれの記述も誤り。

問3 3 3が正しい。

江戸時代初期に蝦夷地の支配を認められた松前藩は、家臣たちにアイヌとの交易場所を知行として与える商場知行制をとっていたが、アイヌ人から鮭や海産物などを略奪する行為が横行し、アイヌの人々から激しい抵抗を受けることとなった。

①の尚氏は三山を統一して15世紀前半に琉球王国を建国、②の北海道では13世紀まで狩猟・漁労を生業とする擦文文化が展開、④の琉球王国は17世紀初め薩摩藩の征服を受けてから日中両属の形をとっていたから、いずれの記述も誤り。

問4 4 4が正しい。

明治政府は、1871(明治4)年、薩摩・長州・土佐3藩から御親兵を募り、この軍事力を背景に廃藩置県を強行した。この時、知藩事は罷免されて東京居住を命じられたが、財政の悪化に困窮していた各藩はこれに従わざるをえず、廃藩置県は円滑にすすめられた。その結果、あらたに中央政府から府知事と県令が任命され、ここに政治的な中央集権化が確立されることとなった。

①の親藩大名は尾張・紀伊・水戸藩の御三家など関東地方以外にも設置，②の転封（国替）は大名統制のために武断政治の一環として実施，③の関東取締出役は関東の治安維持をはかるために幕領のほかに大名領でも警察権を行使していたから，いずれの記述も誤り。

問5 ①が誤り。

明治政府は、1871（明治4）年、戸籍編製の規則を全国統一とすることに定めた戸籍法を制定し、翌年に最初の近代戸籍として壬申戸籍を定めた。

②③④は、1878（明治10）年に制定された郡区町村編制法・府県会規則・地方税規則のいわゆる三新法に関する説明で、いずれの記述も正しい。

問6 ①が正しい。

X 地方自治制度の整備は、ドイツ人顧問モッセの助言を得てすすめられ、1888（明治21）年に市制・町村制、1890（明治23）年には府県制・郡制が制定された。

Y 日本国憲法に基づいて1947（昭和22）年に地方自治法が制定され、都道府県知事の公選が定められるなど、民主主義的な地方自治の確立がはかられた。

第2問 原始から中世初期の社会・文化（配点 18）

問1 ④が正しい。

b 弥生時代には鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来したが、鉄器が農具や武器などの実用品として利用されたのに対し、青銅器は祭祀に用いる祭器としての性格が強く、共通の祭器を用いる地域的なまとまりも生まれた。

d 弥生時代に水稻農業が発達したことは当時の社会生活に大きな影響を与え、集落内部では富を集積した支配者が政治力を発揮するようになった。支配者は、集落どうしの闘争を繰り返しながら、次第に広い地域を統率する首長へと成長し、各地に「クニ」とよばれる政治的集団を成立させた。

aの食料採取は弥生時代以降も継続，cの弥生時代には首長の登場を反映した個人墓が多くみられ，中国製の青銅器などが副葬されていたから，いずれの記述も誤り。

問2 ①が正しい。

『後漢書』東夷伝には、「桓靈の間（2世紀後半の後漢の桓帝・靈帝の時代）、倭国大いに乱れ、更々相攻伐し、歴年主無し」と記され、この時代に倭国内で抗争が繰り返されていたことが示されている。

②の邪馬台国が卑弥呼の晩年に抗争を繰り返したのは狗奴国，③の土偶は縄文時代に収穫や生殖を祈って作られた女性像，④の弥生時代に形成された防御的集落は環濠集落や高地性集落であるから，いずれの記述も誤り。

問3 ④が正しい。

ア 戸籍は班田収授を実施するための基本台帳として6年ごとに作成され、計帳は調・庸を賦課するための台帳として毎年作成された。現在に残されている計帳をみると、逃亡先や個人の身体的特徴が詳細に記されている例が多く、これは、計帳が人頭税の台帳として民衆を個別に把握することを目的に作成されたことを示している。

イ 出拳には公出拳と私出拳の2種があり、公出拳は、国司が稲を春に貸し付けて秋の収穫の際に5割の利息とともに返済させる制度である。当初は、貧農を救済する目的で行われていたが、次第に強制貸付化して農民の負担を過重なものにした。

問4 ⑥が正しい。

Ⅲの駅制は701（大宝元）年に制定された大宝令で確立、Ⅱの聖武天皇によって国分寺・国分尼寺の建立が命じられたのは741（天平13）年、Ⅰの坂上田村麻呂が陸奥国に志波城を築いたのは803（延暦22）年のことである。

問5 ③が誤り。

743（天平15）年に制定された墾田永年私財法によって、墾田の永年私有が公認されることとなったが、私有の公認には位階による開墾面積に制限を設けるなど一定の条件が定められていた。墾田永年私財法は、道鏡政権下の765（天平神護元）年に一時停止されるが、道鏡政権の崩壊とともに再び認められ、772（宝亀3）年には前述した条件も除かれて無制限の開墾が公認されることとなった。そのため土地占有が可能な貴族や寺社などは、周辺の農民や浮浪人を駆使して大規模な開墾に乗り出し、初期荘園の成立をみることとなった。初期荘園の成立は8世紀のことであるから、10世紀における地方支配の転換とは関連がない。

問6 ②が正しい。

X 12世紀後半に成立した『梁塵秘抄』は後白河法皇が編纂した歌謡集で、当時民間で流行していた今様や催馬楽などを集めている。貴族が庶民文化を取り入れた顕著な例である。

Y 田楽は、農民が田植えの際に豊作を祈る田遊びから発達し、平安時代中期以降は都市で芸能化されて神事芸として流行した。中央が地方文化を取り入れた顕著な例である。文中の「本来宮中の芸能」「都から地方に伝わり」などの記述は誤り。

第3問 中世から近世初期の政治と外交 (配点 18)

問1 13 ④が正しい。

1185(文治元)年、源頼朝は治安維持を名目に地頭を全国の荘園・公領に設置する勅許を得、その設置を制度化した。地頭の設置当初の任務は、年貢の徴収・納入、土地の管理や治安維持などであったが、鎌倉幕府の勢力伸長とともに次第に在地領主としての性格を強め、荘園経営に干渉したり、荘園内の年貢を荘園領主に納めずに横領する者も多くなった。

②は守護に関する記述であるから誤り。

③の新補率法は承久の乱の後に定められたので誤り。

問2 14 ①が正しい。

X 2代将軍源頼家は、北条時政と対立し、1203(建仁3)年の比企能員の乱後に修禪寺に幽閉され、翌年謀殺された。

Y 執権北条義時は、1213(建保元)年、有力御家人和田義盛を滅ぼし、政所にくわえて侍所の別当も兼任して執権の地位を確立した。

問3 15 ③が正しい。

b・c 御成敗式目は、1232(貞永元)年に執権北条泰時によって制定された最初の体系的な武家法典である。式目は、頼朝以来の先例や「道理」とよばれる武家社会の慣習や道徳に基づいて成文化され、公平な裁判基準や守護・地頭の権限や任務などが規定されている。また、適用範囲を武家社会のみに限定し、この制定によって律令格式の公家法や荘園領主支配下の本所法を改変するものではない点などが強調されているが、幕府勢力の拡大とともにその適用範囲も広がりを見せた。

問4 16 ②が正しい。

A 1543(天文12)年、ポルトガル人の乗った中国船が九州の種子島に漂着し、鉄砲をもたらした。鉄砲の伝来は、戦国の世に大きな影響を与え、戦国大名の戦術や築城法に変化を与えたほか、堺や紀伊などで鉄砲の国内生産も始まった。

I 1549(天文18)年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルは、鹿児島に来航して日本にキリスト教を伝えた。

問5 17 ①が正しい。

X キリシタン大名の大友義鎮・大村純忠・有馬晴信は、宣教師ヴァリニャーニの勧めに応じて、1582(天正10)年に4人の少年使節をローマ教皇のもとに派遣した。

Y 来日したキリスト教宣教師は、南蛮寺とよばれる教会堂のほか、宣教師養成学校としてのコレジオや宗教教育を行うセミナリオなどを創設し、積極的な布教活動を展開した。

問6 18 ③が正しい。

bは貿易を目的に来航したポルトガル人を宣教師が出迎えている様子を描いた南蛮屏風の一場面、cは全文ポルトガル式のローマ字で書かれている天草版『平家物語』の表紙である。aは通信使の様子を描いた『朝鮮通信使行列絵巻』、dは奈良時代の正倉院宝物の1つである螺鈿紫檀五絃琵琶だから、いずれも南蛮貿易とは関係しない。

第4問 近世の政治と社会 (配点 17)

問1 19 ①が正しい。

ア 商業活動の発展にともなって、大坂や江戸などでは専門の商品を扱う市もみられるようになり、大坂の雑喉場魚市・天満青物市、江戸の日本橋魚市・神田青物市などが活況を呈した。

イ 18世紀後半、識者の間では外国に対する関心が高まり、林子平は1791(寛政3)年に『海国兵談』を著して北方を中心とした海岸防備の強化を主張したが、江戸幕府から処罰された。

問2 20 ④が誤り。

鳥羽・伏見の戦いで勝利を収めた新政府軍は、1868(明治元)年、江戸に逃げ帰った徳川慶喜を追って征討の軍を起こした。しかし、イギリス公使パークスの意向もあって、新政府軍と旧幕府軍の全面的な武力衝突は回避され、江戸城は平和裏に新政府軍に明け渡された。新政府軍の総攻撃を受けて江戸城が落城したとする記述は誤り。

問3 21 ③が正しい。

18世紀後半に寛政の改革を実施した老中松平定信は、都市政策にも尽力し、町費の節約分の70%を江戸町会所に積み立てさせ、蓄えた米や金を貧民救済にあてる七分金積立の制度を設けた。

①の地借や店借は町政には参加できない、②の大塩平八郎が1837(天保8)年に貧民救済のために武装蜂起したのは大坂、④の江戸人口の多くは武士で占められていたから、いずれの記述も誤り。

問4 22 ③が正しい。

史料中の「雪中に籠居婦女達が手を空しくせざるのみの活業也」という記述から、越後の織物生産の様子を読み取ることができる。

問5 23 ④が誤り。

19世紀に入ると、商品生産地域では、豪農や都市の間屋商人が原料や資金を農民に前貸しをして製品を買い占める問屋制家内工業がいつそう発達するようになった。また天保期には、大坂周辺や尾張の綿織物業、桐生・足利などの絹織物業などで、作業場を設けて賃労働者を集め、分業によって共同作業に従事させる工場制手工業（マニファクチュア）による経営もみられるようになった。絵は、「尾張名所図会」に描かれた尾張の綿織物業の生産風景で、多くの女子賃労働者が高機を使用しながら分業で働く様子が示されている。この作業場でのあり方を問屋制家内工業とした記述は誤り。

問6 24 ①が正しい。

- a 老中松平定信は、出版統制令を発して風俗の肅清をはかり、1790（寛政2）年に洒落本などの好色的な出版を禁じ、翌年には洒落本作者山東京伝を罰した。
- c 老中松平定信は、1790（寛政2）年に寛政異学の禁を発し、湯島聖堂の学問所で朱子学以外の講義や研究を禁じた。

bの紫衣事件は17世紀前半、dの女歌舞伎が風俗を取り締まる目的で禁止されたのは江戸時代初期のことであるから、いずれも指定された時期に該当しない。

第5問 近代の政治・社会（配点 12）

問1 25 ①が正しい。

ア・イ 第一次加藤高明内閣は、1925（大正14）年にいわゆる普通選挙法を成立させて選挙権の納税資格を撤廃したが、同時に治安維持法も成立させ、普通選挙実施や日ソ基本条約調印による共産主義運動活発化に対する弾圧を強化した。

問2 26 ②が正しい。

Iの日本最初の社会主義政党である社会民主党が結成されたのは1901（明治34）年、Ⅲの選挙権の納税資格を直接国税3円以上に引き下げた衆議院議員選挙法改正は原敬内閣の1919（大正8）年、Ⅱの立憲政友会・憲政会・革新倶楽部が護憲三派を結成して清浦奎吾内閣打倒をめざす第二次護憲運動を展開したのは1924（大正13）年のことである。

問3 27 ②が正しい。

X 甲申事変で朝鮮における日本の勢力が後退すると、大井憲太郎ら自由党急進派は朝鮮の内政改革を企てようとしたが、渡航直前に大阪で逮捕された（1885年の大阪事件）。この事件に連座した景山（福田）英子は、当時では数少ない女性民権家の1人であった。

Y 関東大震災の混乱の際、無政府主義者大杉栄は、愛人の女性運動家伊藤野枝とともに憲兵大尉甘粕正彦によって虐殺された（1923年の甘粕事件）。

問4 28 ③が正しい。

X 国家神道は、日本近代国家の精神的支柱として天皇制を支え、軍国主義浸透の一因にもなった。GHQは、1945（昭和20）年に国家と神道を分離する神道指令を発し、国家神道を解体させた。日中戦争勃発前後に国家神道が迫害を受けたとする記述は誤り。

Y 第一次近衛文麿内閣は、日中戦争開始後に人民戦線事件とよばれる左翼弾圧事件を起こし、日本無産党幹部や大内兵衛・有沢広巳らの経済学者グループが反政府行動をとったとして検挙した。

第6問 幣原喜重郎（配点 23）

問1 29 ②が正しい。

X ロシア革命によってソヴィエト社会主義政権が成立すると、イギリス・フランス・アメリカは、革命の波及を警戒して1918（大正7）年にシベリアに軍隊を派遣した。寺内正毅内閣もシベリア出兵を宣言し、他の3国が1920（大正9）年に撤兵したのちも駐屯を続け、国際的非難を浴びた。

Y シベリア出兵開始頃の米価は、軍用米の需要増大を見越した商人が米を買い占めるなどしたため、異常な値上がりを見せた。このため、富山県の漁村の主婦たちが米価の安売りを求める運動を起こすと、同様の運動が各地に拡大して米騒動が発生した。国内の米価が下落したとする記述は誤り。

問2 30 ⑤が正しい。

Ⅲの主力艦の保有量を制限したワシントン海軍軍縮条約の調印は1922（大正11）年、Ⅰの国策の手段としての戦争放棄を約した不戦条約がパリで調印されたのは1928（昭和3）年、補助艦の保有量を制限したロンドン海軍軍縮条約の調印は1930（昭和5）年のことである。

問3 31 ②が正しい。

時期判定とグラフの読み取りを合わせた出題であるが、歴史的事項の年代がわかれば事足りる。Xの普通選挙法が成立した1925（大正14）年前後には、小作争議件数は増加をみせ、その後は一時的に減少している。Yの世界恐慌が発生した1929（昭和4）年以降、小作争議の件数は増加をみせたが、争議に参加する小作人の人数は減少している。Yの個々の争議が大規模化する傾向がみられたとする記述は誤り。

問4 32 ③が正しい。

幣原喜重郎は、憲政会・立憲民政党内閣の外相として協調外交を推進し、対米・中国協調をはかりながら、1925（大正14）年には日ソ基本条約を結んでソ連とも国交を樹立した。

問5 ⑥が正しい。

Ⅲの関東軍による張作霖爆殺事件の発生は1928（昭和3）年，Ⅱの国際連盟がリットン調査団を派遣したのは1932（昭和7）年，Ⅰの南京大虐殺の発生は1937（昭和12）年のことである。

問6 ④が誤り。

G H Qは，1945（昭和20）年12月，戦前の軍国主義涵養に影響を与えた修身・日本歴史・地理の授業を停止した。1947（昭和22）年には，民主主義的な学校教育制度を定めた学校教育法と，民主主義教育の理念を定めた教育基本法が制定された。

問7 ③が正しい。

X 敗戦直後の日本経済は，復員や引揚げによる人口増加や記録的な凶作などによって深刻な食糧不足となり，米の配給も滞った。降伏と同時に食糧の配給制度が廃止されたとする記述は誤り。

Y 金融緊急措置令は1946（昭和21）年に幣原喜重郎内閣が発令したもので，インフレの收拾を目的に預金封鎖と旧円から新円への切り換えを行ったが，効果はほとんどなかった。

問8 ③が正しい。

1951(昭和26)年，サンフランシスコ平和条約と同時に日米安全保障条約が調印され，アメリカ軍が継続して日本に駐留することが定められた。翌年には，安保条約の施行細則として日米行政協定が調印され，日本がアメリカ駐留軍に対して基地を提供することが約された。その後，日本国内では基地反対闘争が展開され，内灘事件（1952～53）や砂川事件（1955～59）などは本格的な闘争例として知られる。